

千秀だより

横浜市立千秀小学校 令和2年（2020）1月7日

1月号

URL : www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/senshu/

学校教育目標『自分で考え、表現し、挑戦しつづける子』



あいさつ

校長 富田 操

新しい年を迎えました。保護者の皆様、地域の皆様、今年もよろしくお願いいたします。

「あけましておめでとうございます。」「今年もよろしくお願いいたします。」
たくさんのご家庭で、このようなあいさつが交わされたのではないのでしょうか。ふだんは大変近い関係である家族であっても、年の初めは、なんとなく改まった気持ちでいつもより硬いあいさつを交わすものです。子どもと大人の関係がごく近くなった現代で、たまにそうした礼儀を意識することは、子どもにとっても悪いことではないように思います。

さて、12月の冬休み前の朝会で、私は、子どもたちに次のような話をしました。

『前回の朝会で、校長先生はみんなにあいさつの大切さについて話をしました。あいさつの仕方は人それぞれで良いけれど、あいさつする時、「あなたが確かにそこにいることを私はわかっています、受け止めています。」ということが相手に伝わるようにあいさつしましょう。というような話でした。

そうすると、その話をした次の日に、たくさんの方が、立ち止まって先生を見てあいさつしたり、言葉はなくても、しっかりと先生を見てお辞儀をしたりしてくれました。先生はとてもうれしかったです。』

このような内容の話です。

子どもたちと「おはよう」のあいさつを交わすために、毎朝、校門で子どもたちを迎えています。毎日立っていると、その子の日々の変化がとてもよくわかります。「お、今日は元気ないな・・・」「最近、元気になってきたなあ・・・」等です。交わす言葉は「おはよう」の一言ですが、言葉以外の情報もたくさん伝わってきます。

あいさつとは、人のもつ社会的スキルの中でも、特に強い力をもつものの一つだと思います。この社会的スキルが身についているかどうかは、今現在はもちろんですが、大げさに言うとその人の一生を変えるほどの影響があるのではないのでしょうか。

そうした「一生使える社会的スキル」を子どもに身に付けさせるのは、私たち大人の大きな仕事だと思います。教職員・保護者の皆様・地域の皆様・・・私たち大人と一緒に子どもたちに大事なスキルを身に付けさせていければと思います。

それと同時に、あいさつとは「あなたが確かにそこにいる、あなたがそこにいることを私はしっかりと受け止めています」・・・というメッセージでもあると思うのです。社会的スキルとしての「あいさつすること」という習慣を身に付けた上で、子どもたちが、あいさつに自分なりの意味を見いだせるようになっていってくれれば良いなと思います。

先日皆様をお願いをした『「千秀の教育」に対するアンケート』では、千秀小の子どもたちのあいさつが少なくなってきたように思う、というご意見を複数いただきました。

子どもたちの明るく元気なあいさつが響く、学校・家庭・地域になっていくことを目指していきたいと思います。今年もご協力のほどよろしくお願いいたします。